ユームテクノロジージャパン

新サービス記者発表会開く
「ラーニングサークル」提供開始

オンライン学習プラットフォーム「ＵＭＵ（ユーム）」を展開しているユームテクノロジージャパン（東京都港区、松田しゅう平代表取締役）は、ＡＩとコミュニティー学習に基づいた新サービス「ラーニングサークル」の提供を11月19日から開始した。これに伴い、同日にＺｏｏｍでオンライン記者発表会を開き、松田代表取締役と「ラーニングサークル」プロデューサーの小林隆文氏が「ラーニングサークル」の概要や特徴などについて説明した。

松田代表取締役

小林氏

記者発表会ではまず、松田代表取締役が会社概要を説明。２０１５年にシリコンバレーでスタートしたユームテクノロジー社の日本法人として18年に設立したことや、「『最先端のテクノロジー』と『学習の科学』で世界の世の中の学びを変え、その結果、世界をより良いものにする」というビジョンの下、企業の重要な戦略を学習という側面から支援していること、日本国内では日本生命をはじめ多くの企業が導入していることなどを紹介した。

また、ユームテクノロジー社（グローバル）は２０３以上の国と地域で展開していることや、「ユーム」は６年連続（15～20年）で世界最大の人材育成研究機関ＡＴＤ（The Association for Talent Development（注））のワールドワイドパートナーに選出されていることなども説明した。

学び特化のオンラインコミュニティー

次に、学習のグローバルな潮流について触れ、「企業における従業員の学習の場は集合研修などがあるが、実は従業員は自己学習を通じてキャリアアップを図っている。こうした属人化されていたインフォーマルな学びが全てデータ化できるようになったことから、インフォーマルのデータ分析やアプローチが今後の企業戦略の重要な位置付けになってきている」との考えを示した。

また、近年は短時間かつ小容量のプログラムで学習するマイクロラーニングという方法があるが、さらに短時間かつ小容量のニーズが高まっていることから、今後はマイクロコンテンツが求められるとし、「学習者にとって最適な学びの環境を用意することが重要であり、企業内学習をそのように促進するツールはほぼないことから、当社はインフォーマルな学びを手助けする『ラーニングサークル』を展開する」と述べた。

続いて、小林氏が「ラーニングサークル」のコンセプトや特徴などについて解説。「ラーニングサークル」は学びに特化したオンラインコミュニティーで、一つのサークルに1人のオーナー、一つのテーマを持ち、そのテーマに興味のある参加者が集まって双方向にコミュニケーションを取ることで学びを促進するとした。

また、講師の主な利用目的として「ファンを定着させ、深く交流できる機会を得る」「コミュニティーの中からさらに新しい価値を創発・生み出せる」「コンテンツ・知識をマネタイズできる」など、学習者の主な利用目的として「一方的なインプットではなく、対話を通じた新しい気付きを得ることができる」「同じテーマを学ぶ仲間と講師とつながれる」「隙間時間に学習できる」などを挙げ、機能と具体的な活用イメージをデモで紹介した。

小林氏は「『ラーニングサークル』は学びにおける課題解決の手段として考えている。学習者だけでなく、企業やオーナーとウインーウインーウインになるエコサイクルを提供していきたい」と述べた。

最後に、松田代表取締役が今後のビジネス展開について説明。「衣」「食」「住」「行」「学」のうち、「学」だけが１００％オンラインで行うことができるとし、「当社が考えているのは、デジタルの力を使って学習を最大化すること。さまざまな学習理論やメソッドを織り交ぜて人に最適な学習が提供できれば、生まれ持った環境に左右されずに自己実現しつつ、その結果、世界がより良いものになる」と強調した。

（注）１９４３年に設立された教育研修・能力開発・パフォーマンス向上に関する専門団体で、現在は世界１２０カ国以上に会員を有し、世界中の企業・団体などの組織における職場学習と、従業員と経営者の生産性向上を支援するために幅広く活動を行っている。